

「長崎の教会群とキリスト教関連資産」展
～ 類まれなる日本のキリスト教文化の軌跡 ～

Mostra

"Le Chiese e i Siti Cristiani di Nagasaki"

Candidati al riconoscimento tra i patrimoni cultura dell'umanità

“Sulle orme della straordinaria storia del cristianesimo in Giappone”



日本の最も西に位置する長崎地方は、紺碧の空、青く透き通る広大な海に囲まれ、青緑に彩られた島々が点在する自然豊かな美しい地方です。

古くから大陸との交流をもち、西洋との交流の窓口として、日本の文化の形成や近代化に大きな役割を果たすとともに、長崎地方ならではのオリジナルの文化を育んできました。中でも、日本でキリスト教が根付いていくすべての過程を見ることができるのが、長崎地方の特徴です。

1549年、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教をもたらし、16世紀半ば以降、宣教師たちの活動により長崎地方を中心にキリスト教が繁栄しました。その後、時の政権による禁教と弾圧・迫害の中で、およそ250年もの間、長崎地方の信徒たちは密かに組織を維持しながら信仰を続け、そして19世紀半ばにカトリックへの復帰を遂げるのです。

このたびの「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」展では、この16世紀以来の4世紀にわたる日本におけるキリスト教の受容の過程を示す類まれなる歴史、文化と遺産群を、映像や資料、展示品とともにおみせいたします。

古くより仏教と神道が信仰されていた国、日本において、キリスト教がどのように伝播し、受難を受け、ドラマティックに復活をとげたのか。その驚きの歴史をあなたの目で確かめてください。

<期間>

11月23日（月）～29日（日）10:00～13:00／16:00～19:00

Da lunedì 23 a domenica 29 novembre

Orari di apertura: 10:00-13:00, 16:00-19:00

<会場>

カンチエレリア宮（ローマ）

Palazzo della Cancelleria (Piazza della Cancelleria 1)

<主催>

長崎県、熊本県、長崎市、佐世保市、平戸市、五島市、南島原市、小値賀町、新上五島町、天草市

<展示作品の一例>



南蛮人来朝之図屏風（南蛮屏風）（複製）



お掛け絵「受胎告知」（複製）18世紀後半～19世紀頃

平戸・生月の潜伏キリシタンによって受け継がれてきた聖画で、「お洗濯」と呼ばれる描き換えが重ねられ、和洋化していった。

受胎告知の場面を描く本図では、羽を背負う大天使ガブリエル、すでにキリストを抱いている聖母マリア、上方にはゼウスが描かれている。



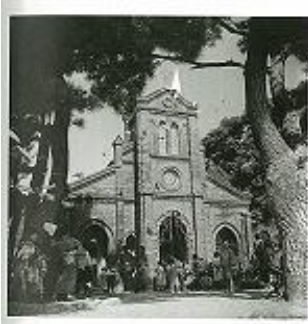
アワビ貝

「三チワン様」の名札がつけられたアワビ貝。「三チワン様」は洗礼者聖ヨハネをさすものと考えられる。潜伏キリシタンたちは、貝の内側に輝き浮き上がる模様に聖人の姿を求めている。



(伝) マリア観音 19世紀頃

浦上の信徒が所持していたとの伝承がある像。



名取洋之助 写真（モニターによるスライドショー）